

# 高大連携に活用する経営情報分野の導入教材開発

佐々木 宣介<sup>†</sup>, 小川 仁士<sup>†</sup>, 竹本 康彦<sup>†</sup>, 陳 春祥<sup>†</sup>, 宇野 健<sup>†</sup>

県立広島大学 経営情報学部 経営情報学科<sup>†</sup>

## 1. はじめに

本研究は、高大連携事業を念頭に置き、経営情報分野の内容をわかりやすく紹介できる教材作成を行うことを目的としている。また、教材の提供方式としては、Web上の教材提供と公開講座等連携して活用することを想定している。

情報系学科はもともと文理融合的性格を持っている。さらに、著者らの所属する学科名である「経営情報」または「経営情報学」という用語は高校生には十分に定着した状況とは言えない。このような背景もあって、本学経営情報学科の目指す教育・研究の理念、カリキュラムの特色が、入学を希望する生徒に十分に浸透しておらず、本学科に入学した学生の意識と学科の特徴・教育分野にミスマッチが見られるケースがあった。著者らの所属する学科には、文系、理系双方からの出身者が入学してくるが、経営学と情報学のどちらか片方を学ぶのではなく、情報学の専門的内容は学ぶべき必須事項であると位置づけられている。しかし、一部の学生の認識にやや情報学に対して意識が低く、情報学の専門的内容を学習することを十分認識していなかったという事例が見られた。

本研究は、このような問題の解決につながる一つの試みとして、高校生を対象として、Web媒体上で学習可能な教材と公開講座などの対面式講座を併用する形で、経営情報分野の内容の紹介と浸透を効果的に行うことが可能となる教材開発を企図したものである。最終目標としては、Web媒体で公開するe-learning型教材と対面式講座の実施の双方を補完的に活用する融合的な教材とすることを目指している。

この教材に高校生が触れることにより、たとえば「経営情報学」という用語が十分に浸透していない高校生が対象であっても、本学科の特徴や入学後に学ぶ内容について、より正確なイメージを持ってもらえる効果を期待している。

Development of Educational Materials in the Field of Management and Information Systems for High School and University Partnership.

<sup>†</sup>Nobusuke Sasaki, Hitoshi Ogawa, Yasuhiko Takemoto, Chun-Xiang Chen, Takeshi Uno, Department of Management and Information Systems, Prefectural University of Hiroshima.

これまでに Web 媒体による公開を行うための複数の教材コンテンツの作成、教材公開用 Web サーバの設置を実施した<sup>[1]</sup>。公開講座においても、公開している教材と同一のテーマの講座を提供するといった活動を行っている。本稿では、現在までの進行状況と今後の計画を報告する。

## 2. システムと公開教材の概要

本節では、設置した教材公開システムおよび公開中の教材について記載する。教材コンテンツ作成は複数の教員で分担して行っていく予定であることから、サーバそのものに関する専門的知識がない者でも容易にコンテンツを作成できる方が望ましい。そこで、教材公開システムにおいては、CMS (Contents Management System: コンテンツ管理システム) を活用することとし、WordPress<sup>[2]</sup>という CMS を利用した。

教材公開システムのサーバは以下の URL でアクセスが可能である。

<http://canopus.pu-hiroshima.ac.jp/>

現在までに教材コンテンツおよび、簡単な学科紹介のコンテンツを整備している。以下に教材公開サイトの外観(教材公開ページ)を示す。

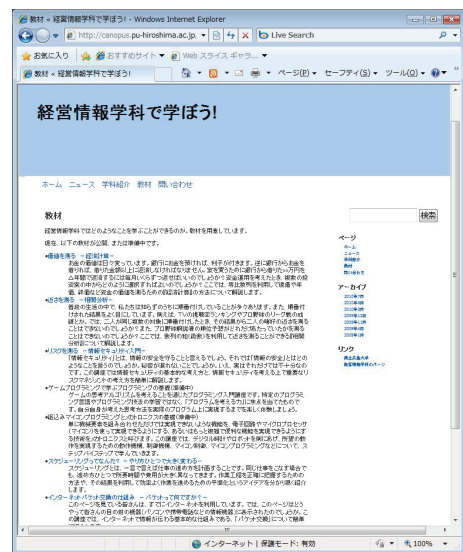


図1: 教材公開サイトの外観

これまでに、情報学や経営情報学に関係する分野を中心に9つの教材がWeb上で公開または公開準備中となっている。今後も本学科で扱う分野全体がカバーできるまで教材コンテンツの追加を行っていく予定である。

### 3. 公開講座等への活用状況

一定のWeb公開用教材コンテンツが揃いつつあり、これまでのWeb用教材コンテンツを作成することを事業の中心とする段階から、コンテンツ作成を継続しつつ教材公開サイトの周知および、Web教材とそれ以外の手段とを連携した活用を行っていく段階に入ったと認識している。そこで、2010年度から教材公開サイトの周知活動と公開講座等における活用を開始している。

周知活動としては、(a)教材公開サイトの広報ポスターの製作、(b)大学説明会など、各種説明会における広報、といった手段で行っている。製作したポスターは学内掲示板や大学説明会等の機会を利用した掲示を行った他、広島県内の高等学校約50校へ情報提供としてポスターの送付を行った。

これまでに一定の周知活動は行っているが、ポスターは長期間掲示が期待できるものではなく、また、説明会等への参加者も一定の限られた人数であって、その宣伝効果は限られたものと考えられる。周知の方法については、今後も検討を要すると考えている。

次に教材の公開講座等への活用状況であるが、オープンキャンパスにおける模擬講義、高校生対象の公開講座等の機会に、本教材公開システムで提供している講座と同一のテーマで複数の講義を行っている。今後も同様の機会があれば、出張講義のような機会も含めて積極的に講義の実施を行っていく予定である。

ただ、現状では公開している教材と同じテーマの講座を実施しているといった利用にとどまっており、教材公開サイトと連携・融合した形の講座提供には至っていない状況である。

### 4. 今後の計画

先に記述したとおり、当初は教材コンテンツの作成が活動の中心であったが、今後は教材コンテンツを追加しつつ、Web教材とそれ以外の手段とを連携した活用を行っていく段階に入ったと認識している。

まず、コンテンツの追加については、教材テーマは本学科の教育・研究内容全体をカバーできるまで追加していくことを目指している。また、入学後のカリキュラムや想定される科目履

修モデルなど、教材以外の各種情報提供も進めていく予定である。

次にシステムの機能強化については、利用者が教材の内容についての質問や各種連絡等を気楽に行うことができるような機能を加えることを計画している。同時に利用者からのアンケート、サーバのアクセスログ(記録)の分析などを通じて、サイトの改善点を探ることも検討する。

今後、重点的に取り組む予定としているのは、さらなる周知活動および、公開講座等との連携の強化である。周知活動については、公開講座・各種説明会・高校訪問などの機会を利用した周知活動を継続して行っていく。

公開講座への活用については、これまでの教材公開サイトで公開している教材と同じテーマの講座を実施するという方式から、Webによって公開するe-learning型教材と対面式講座の実施の双方を活用する融合的な講座として提供できる教材化を計画している。

模擬講義、公開講座といった機会は、30分から最大でも90分程度の時間で1回だけ講座を実施する機会が多い。このような限られた時間配分で実施するという前提で、対面式講座で実施する内容と教材公開サイトで公開する教材を組み合わせた補完的な講座として提供する方策を検討していく。例えばWeb教材およびその公開システムを対面式講座の事前解説や補足解説の用途に利用する、事後の質問受付に利用する、確認用テストに利用するといったさまざまな利用方法が考えられる。対面式講座は限られた時間内での実施を想定しているため、座学的スタイルよりも、対面式講座でしか行うことができない実習に近いスタイルなどにより、受講者に効果的に内容を印象づけるような工夫が必要と考えている。

### 謝辞

本研究は、平成20年度(2008年度)～21年度(2009年度)県立広島大学重点研究事業高等教育推進部門の研究助成を受けている。

### 参考文献

- [1] 佐々木宣介, 小川仁士, 竹本康彦, 高大連携を想定した経営情報分野の教材公開システムの構築, 県立広島大学経営情報学部論集, 第2号, pp. 65-68, 2010.
- [2] Wordpress ホームページ, <http://wordpress.org/>